

東南アで協業拡大

平安製作所 車部品の技術支援

自動車部品製造の平安製作所（滋賀県高島市）は東南アジアで現地部品メーカーとの協業を拡大する。技術指導するインドネシアの部品メーカーが7月から駆動部品などの量産を始める。年内にインドネシアとマレーシアで新たに2社と技術提携する。コスト減や生産改善につながる技術を提供して、自動車生産が増える東南アジアで収益を伸ばす。

パミンドは日系メーカー向けに自動車部品をつくる中堅メーカーで、2013年の売上高は約50億円。同年夏に平安製と提携して部品工法や生産ラインの設計、人材育成などの指導を受け、ドライブブレードの製造コストを従来比15%低減した。平安製は部品の販売数に応じた指導料などを受け取る。

インドネシアの自動車部品最大手アストラ・オートパーツやマレーシアのサブラ・インタストリアルとも交渉を詰めている。

平安製は溶接などをせず、プレス成型のみで一体成型する手法により、国内で部品コストを3割ほど低減した実績がある。15年3月期の売上高見込みは57億円で国内がほとんどだが、東南アジアでの協業拡大で「将来は海外比率を30%に高めたい」（荒木邦彦会長）考えた。

平安製が技術支援する部品メーカー、パミンド（ジャカルタ）が7月から日系メーカーの新型車向けに、ドライブブレードと燃料タンクを供給する。

日本経済新聞

2015年(平成27年)3月13日